AUDI RS Q3

The Point is__ オーバル左右出しマフラー

RS らしいスタイリングを手に入れた Q3 の RS

OWNER >> ナガワさん
CALL >> MAKE OVER（メイクオーバー）[045] 620-0887 http://make-over.jp
PHOTO >> NAOKI INUZUKA（犬塚直樹）
TEXT>>AKIO SATO（佐藤アキオ）

アーバンライフスタイルに適したショートボディに、ビューポイントの高い SUV スタイル。使い勝手の良さとスタイリッシュさで、一躍アウディファミリー屈指の人気モデルへと駆け上がってきた Q3 には、これ見よがしなボディアレンジよりも、「どこをイジってる !?」と聞き返したくなるような、サラッとシンプルなモディファイが似合う。それはトップグレードの RS Q3 にも言えることで、そのツボをカチッと押さえたら、かなり品格が上がる。

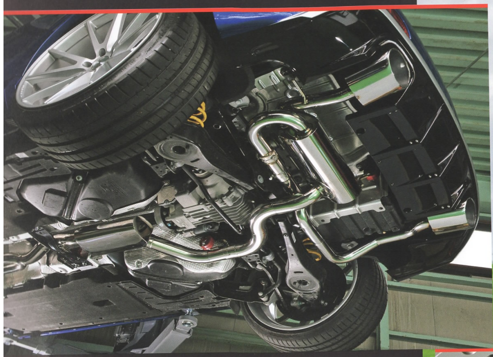
セパンブルーパールエフェクトに彩られたボディは、ドイツ本国仕様と同じカラーリングにフロントマスクをシルバーでラッピングし、ヴォッセの 21 インチホイールも同様のシルバーフィニッシュを選ぶことで、ドアミラーやルーフレールを含めたトータルバランスに一切スキを作らない。

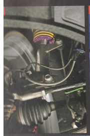
リアビューに至っては、RS シリーズのセオリーとなっているオーバル２本出しマフラーが備わり、何も手を付けていないようにみせておいて……、というかココがオプティカルのピークだから要チューモク！ 実をいうと、左右オーバル１本ずつの２本出しが RS 不変のルールかと思いきや、RS Q3 だけは例外で、左側オーバル１本出しなのだ。

理由は、右後輪の後ろ側にバッテリーが置かれるため、配管するスペースがキープできなかったと推測できるが、バランスイット製エキゾーストシステムでは、アウディが克服できなかった１本出しのウイークポイントをサクッと克服。ほかの RS シリーズ同様のオーバル２本出しのリアビューを実現させてきたのだ。これって、世界中の RS Q3 オーナーが欲しがってた〝使えるパーツ〟で間違いナシ！

エキゾーストは、キャタライザーの後ろから交換するタイプで、オールステンレス製。純正のバルブシステムがそのまま使えるので、サウンドのコントロールも意のままだ。同時にリリースされた２本出し対応のリアハーフバンパースポイラーと組み合わせれば、RS Q3 の本来の姿が完成するワケだ。

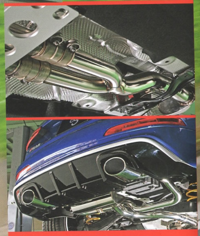
アウディ本社もおそらく悔しがる理想のスタイリングを手にし、RS Q3 は夏のアーバンストリートを爽やかに駆け抜ける――。





01_ バランスイットでは、ステンメッシュホースを採用したブレーキラインも用意。これでブレーキタッチが大きく変わる、隠れた機能パーツだ。02_ 細身の 10 スポークで 21 インチを支える。このデザイン力と強度が、ヴォッセ VVS VFS-1 が人気であることの裏付けだ。03_RS Q3 の腰高感をスムーズに抑える車高調には KW の Ver.3 を指名し、RS シリーズならではのハイパフォーマンスドライビングとの両立もこなす。

ドイツ仕様のごとく、サイドベントグリル内のタテ型ダクト、グリル下の A ライン、そしてそこに描かれるクワトロの文字をシルバーに。知る人ぞ知る、わかる人だけわかるオシャレ！



曲線美が一目瞭然の
バランスイット製エキゾースト

ボディキットを中心に展開してきたバランスイットが、初めてラインアップに加えた排気系商品が RS Q3 用キャタバックエキゾーストシステムだ。最大の障害物であるバッテリーを巧みなレイアウトによって避け、理想のオーバル２本出しを実現。同時発売のリアハーフバンパースポイラー（写真の製品は塗り分け済み。カーボン製もアリ）も RS Q3 純正デザインを踏襲しているので、違和感なく軽量化、抜けのよさ、バルブ切り替えによるサウンドが楽しめる。

■ SPECIFICATIONS　AUDI RS Q3 2014
WHEEL　VOSSEN >> VVS VFS-1 F:21×10.5　R:21×10.5
TIRE　MICHELIN >> Pilot Super Sport F:265/30R21　R:265/30R21
SUSPENSION KW >> Ver.3 Adjustable Coilover
BRAKE　balance it >> Brake Line System
EXHAUST　balance it >> Cat-Back Exhaust System
EXTERIOR　balance it >> Rear Half Bumper Spoiler, AUDI DE Look
Mask Wrapping

EXHAUST
& PERFORMANCE
ウンドとパワーに高ぶる

AKRAPOVIC for AUDI

［アクラポヴィッチ・フォー・アウディ］

Application :
AUDI S6 ／ RS4、S5 and other AUDI S/RS

ヨーロッパのトップブランド、アウディをも席巻

CALL>>make over（メイクオーバー） [045]620-0887 http://make-over.jp
HASHIMOTO CORPORATION（橋本コーポレーション）
[075]761-7351　www.h-c.co.jp
PHOTO>>eS4
TEXT>>AKIO SATO（佐藤アキオ）

アクラポヴィッチのエキゾーストを語るのに、浮わついた社交辞令などいらない。フェラーリ、ランボルギーニといったエキゾチック系、そしてポルシェ 911、メルセデスの SLS や C63、BMW M など、スピード重視のモデルにしか対応しない、つまりは性能強化のためのパーツであることを第一とし、それを支える圧倒的なクラフトマンシップはワールドワイドに評価され、ありとあらゆる面で排気システムのトップに君臨していることが明白だからだ。

そこでここでは視点を変え、実際に取り付けを行っているプロショップの目から見たアクラポヴィッチのメリットを探ることにした。協力していただいたのは、アウディモディファイの専門店として名高い神奈川・メイクオーバー。お話をうかがったのは、代表の木内サンだ。

「アウディスポーツのスポンサードをしている関係から、アクラポヴィッチは今年から、アウディ用マフラーにチカラを入れています。設定されているのは、RS4、S5、RS5、S6、RS6、S7、R8 の 5.2L など、アタマに〝A〟じゃなくて、〝S〟や〝RS〟や〝R〟が付くハイパフォーマンスモデル用ばかりですね。

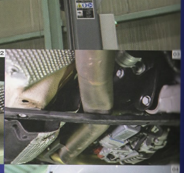
ターボ車の場合、どうしても低音になりがちなサウンドも、アクラポヴィッチは高音をキープしていますし、V8 でもいわゆる〝ドロドロ〟した音にはなりません。すごいのは、純正では感じられたコモリ音がアクラポヴィッチを付けると全然出ないので、性能はもちろん、音へのコダワリが強い方にもオススメです。

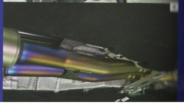
取り付け精度も高いですし、アームやブレイズなどと干渉しないよう、パイプ配管の〝逃げ（クリアランス）〟もきっちり計算されています。またステーに穴が開けられているのは、軽量化のためでしょう。ホント、すべての面で考えられているシステムなので、S、RS 系のお客様からマフラー交換の相談を受けた際に、最初に提案させていただいてます。まず間違いないですからね」

アクラポヴィッチでは、エキマニから後ろをすべて交換する「エボリューションライン」と、リアパートだけ交換する「スリップオンライン」の２タイプを用意するが、どちらも世界基準の音と性能が享受可能。さすがはアクラポヴィッチ、マフラーの頂点と呼ばれるのはダテじゃない！

ショップ目線でアクラポヴィッチのメリットを語ってくださった神奈川「メイクオーバー」の木内代表。取り付けの確かさにも定評がある。

AUDI S6 AVANT × TITANIUM　EVOLUTION LINE EXHAUST
サウンドとパフォーマンスをまさに両立





01_ 純正で感じられるコモリ感を完全に払拭した気持ちのいいサウンドにシビレる！ 02_ 取り付けステーに穴が。小さなことだが、軽量化に貢献しているのだ。03_ 絶妙な精度カーブによって、アームなどとの干渉も起こさない。04_ 製品はチタン製で、出口のみカーボンに。このコンビネーション、さすがはアクラポヴィッチ、ヤバすぎる。05_ センターパイプをのぞいてみると、チタン特有のキレイなヤケを発見。純正比 7.7kg の軽量化と 4.6HP の出力アップがのぞめる。

AUDI RS4 × TITANIUM　EVOLUTION LINE EXHAUST
フルチタンの実力をフルに発揮

RS4 にチタン製のフルエキゾーストシステムであるエボリューションラインを組み込んだ例。海外製品の中には「専用設計」と言いつつも取り付け精度が悪く、多少の加工が必要なモノがあったりするが、アクラポヴィッチにはそれがない。だから、取り付けの手間もかからず、メイクオーバーに１日クルマを預けてもらえば施工可能とのことだ。

AUDI A5 × STAINLESS EVOLUTION LINE EXHAUST
ステンレスモデル、人気爆発中！

4.2L の S5 には、スリップオンラインと呼ばれるリアパートのみのエキゾーストが用意される。材質はステンレス製で、出口部分のみチタンだ。このシステムとキャタライザーをつなぐステンレス製のリンクパイプや、ワイヤレスのバルブキットなども別売りで用意。純正比 0.1kg の軽量化、2.0HP の出力アップと、数字的にはもの足りないと思うかもしれないが、フィーリングと満足度は数字では表せないほど激烈に高い。